

昔の道具は、
どのように使
ったのかな。



【昔の道具②】



大きな木を切る
のこぎり



すき



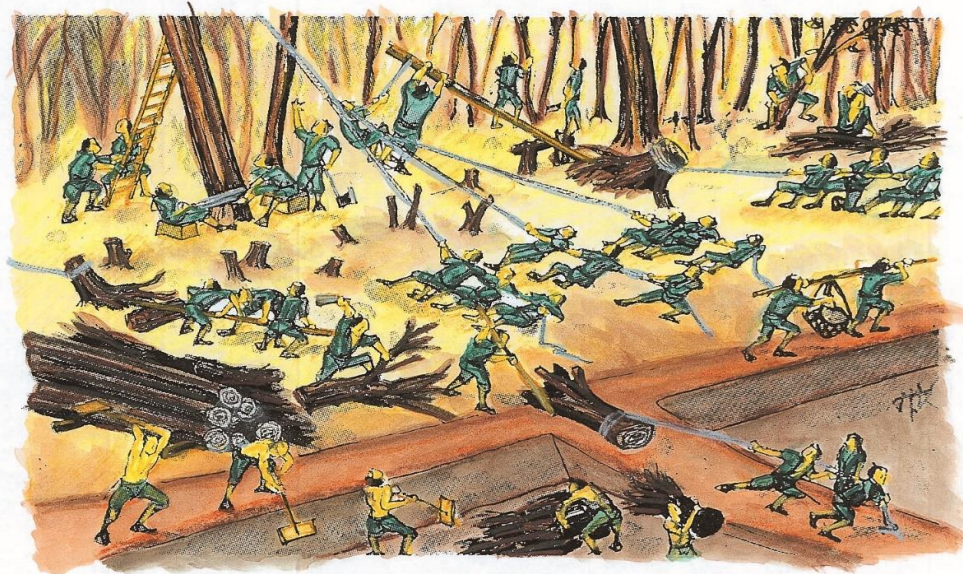
土ぐわ

「もっこ」は、
p.98を見てね。



こうして決まった位置^{いち}に用水路をほり始めました。しかし、山が急な上に、そのころは道具も「土ぐわ」「すき」「もっこ」などしかなく、時間もかかり、本当におずかしい工事となりました。どうしてもほりわたることができずに、トンネルをほった所もありました。また、せっかくほった用水路が、がけくずれのためにこわれてしまうこともありました。

用水路をほる仕事とともに、田をつくるために木を切ったり、土をならしたりする仕事もいっしょに行われました。大きな木を切り、根をほり起こす仕事も、土を運んだりならしたりする仕事も、一人ではとてもできないたいへんな作業でした。



木を切り、田をつくる人たち

つらくきびしい工事でしたが、大勢^{おおぜい}の人々の協力^{きょうりよく}と努力^{どりよく}のおかげで、工事を始めてから4年後の元禄^{げんろく}16(1703)年にようやく「宮川新田」が開かれました。

⑩ 四郎兵衛親子の開こん

四郎兵衛は、宮川新田のほかにも柏崎に新しい田をつくりました。それどころか、柏崎だけでなく、新潟県内に開いた新田は、52の村におよびました。

四郎兵衛の長男^{ちやうなんまさのり}将矩は、遠く今の福井県^{ふくい}の殿様^{とのさま}のたのみで、田の水はけをよくしたり、新田を開いたりする仕事をしました。

次男^{じなん}の儀右衛門^{ぎえもん}は、新発田^{しんぱた}の殿様^{とのさま}のたのみで、紫雲寺^{しうんじ}の湯^{がた}のうめたてをして、48もの村をつくりました。

四郎兵衛は、親子で協力して多くの土地を開こんし、米のとれる土地にしました。また、多くの人たちが四郎兵衛親子に協力しました。そして、みんなで新田を開き、豊かな^{ゆた}土地をつくっていったのです。

福井県や新発田市の紫雲寺はどこにあるのかな。地図帳で調べてみようよ。



米のとれる土地をつくるために、たくさんの工夫^{くふう}や努力^{どりよく}がされてきたことが分かりましたね。



宮川四郎兵衛の工夫や努力について、感じたことをまとめましょう。

.....
.....
.....

昔のできごとや当時の人々について知る手がかりは、みんなのまわりにたくさんあるよ。



せきひ
石碑



むかしの地図や絵

このほかにも

- ・柏崎市役所
 - ・柏崎市立図書館 (ソフィアセンター)
 - ・柏崎市立博物館 (はくぶつかん)
 - ・地域のお年寄り など (ちいき としよ)
- ☆話を聞いてみよう。